



DRD

NPO 法人
**災害
救助犬
ネットワーク**
組織概要

2025



災害救助犬とは人の臭い(息、体臭、汗、皮脂など)を嗅ぎ分け生きてる人がいれば吠えて知らせくれますので場所が特定しやすくなり救助が早く行えます。他方、警察犬は残された犯人の特定された臭いを追いかけるように訓練しています。被災者が特定しにくい災害のために不特定の人の臭いを探るように訓練しているのが災害救助犬です。

活動の目的

私たちは災害時、平時を問わず行方不明者の捜索に従事することを目的としています。そのために必要な訓練、準備は怠ることのないようにします。

ボランティア理念

私たちは災害時、平時に救えるはずの命を救うために活動したいという全国のボランティアで構成され、さまざまな役割で関わり社会に貢献できればと願っています。

実動する救助犬

行方不明者の捜索という実動で社会貢献するために訓練、認定などの事業をプログラムしています。どこで起こるかかわからない災害に対応できる体制づくりをめざしています。

WWW.drd-network.or.jp TEL:(03)3331-9188 info@drd-network.or.jp



災害現場で必要な捜索作業を担える能力、体制づくりを目指します！

1. 実働できる組織であること。
2. 非営利活動であること。
3. 組織、個人にかかわらず交流、協力、連携する。
4. 地域が自主的に訓練、活動ができるように相互支援する。
5. 各地での定期訓練会、統一に向けた認定審査の考察、実施する。
6. 救助犬の社会的認知の向上と救助犬の空白地域をなくすための広報活動を行う。
7. 地域間の交流、連携のコーディネートや即応できるネットワーク化を目指していく。
8. 組織、グループ間の情報の共有と一元化を図る。

現在、国内各地に 41 の組織が存在するが、救助犬がいる地域が被災すれば活動はできなくなります。被災地へ周辺から救助犬を速やかに投入するためにネットワーク化をめざし 2007 年に全国広域組織として誕生しました。

日常的な訓練仲間がグループを作り発展してきた経緯から組織間の連携は至難のチャレンジでもあります。やらなければならないことでもあります。そのうえで実働を考えれば、情報収集能力、分析力、統率力、決断力のあるリーダーの重要性、補給、連絡、調整などのサポーターの必要性から犬だけでなく人材の育成、能力向上にも力を注いでいかなければなりません。

災害で実際に対応するためには情報の共有、一元化が欠かせず、日常的な合同訓練も必要です。そして何よりも人命救助の目的をしっかりと持ち続けることであります。

わが国では欧米に比べサーチ&レスキュー、メディカル(捜索、救出、救命)の整ったシステムの中で人命救助に携わっているわけではなく。警察犬に比べ救助犬の認知は低く、その能力の有効性を生かす機会がありません。NPO の民間であることは海外も同様ですが、犬に対する文化、信頼の歴史が違っていると誤解している場合ではありません。NPO 法人として社会への約束、支援を基盤にしている以上、社会が納得してもらえらる組織であることを忘れずに努力していくつもりです。

私たちは民間の NPO
ボランティアとしての団体です。
救助犬の育成、救助隊との連携訓練、
災害地への移動、装備はすべて自費
で賄っています。
行政からの補助金制度はなく、不足分
は一般社会の皆さまからの寄付、募金
により補っています。
社会の皆様の期待に応えられるよう
努力して参りますのでご支援を
よろしくお願ひします。



NPO法人災害救助犬ネットワーク
DISASTER RESCUE DOG NETWORK

沿革

1991年 全国の職業訓練士らがスイス国際救助犬に視察に行き、国内での救助犬育成に着手
日本初の救助犬が誕生し富山に救助犬活動組織を設立(全国災害救助犬協会)

1995年 阪神淡路大震災へ出動

1999年 台湾大地震へ出動

2003年 熊本水俣大水害へ出動

2004年 中越地震へ出動(現場活動できず)

2004年 三重県宮川村土砂災害へ出動

2007年 中越沖地震へ出動

2007年 全組織メンバー有志 44名で国内各地の災害に
即応できる体制作りめざし現 NPO 法人災害救助犬ネットワークを設立

※内閣府認証 2008年2月

2007年 群馬県桐生市と出動協定締結

2008年 岩手内陸地震へ出動

2010年 広島県庄原市土石流災害へ出動

2010年 岐阜県ひるがの高原少女行方不明へ出動

2010年 三重県、岩手県と出動協定締結

2011年 東日本大震災へ出動(延べ19日、68頭、102名)
釜石市/大槌町/宮古市/相馬市郡山市/石巻市/
気仙沼市/陸前高田市/いわき市

2011年 京都府と出動協定締結

2012年 青森県と出動協定締結

2013年 滋賀県マキノ町小学生行方不明に出動

2014年 広島県土砂災害へ出動(11団体の統括本部)

2015年 宮城県と出動協定締結

2016年 福島県と出動協定締結

2016年 熊本地震へ出動(南阿蘇町にて9団体の統括本部)

2017年 群馬県と出動協定締結(単独)

2018年 西日本豪雨災害出動呉市(4団体連携)

2018年 群馬県モデル検証のためスイスレドッグと連携訓練

2019年 スイス政府公認救助犬団体レドッグと連携協定締結

2020年 サーチ&レスキュー専用訓練施設工事着手

2021年 消防 S&R 部門新設(現役消防士らで構成)

2022年 スイス ITW に参加

2023年 群馬県沼田市に倒壊家屋訓練施設着手

2024年 能登半島地震の出動





NPO法人災害救助犬ネットワーク
DISASTER RESCUE DOG NETWORK

組織体制

名称	特定非営利活動法人 災害救助犬ネットワーク	info@drd-network.or.jp
主たる事務所	東京都渋谷区神宮前 6-23-4	(03)6691-0488
北東北事務所	岩手県盛岡市北松園 4-36-1	(019)662-1323
南東北事務所	福島市瀬上町字東町 1-3-13	(024)554-0614
関西事務所	京都市上京区富小路町 457	(075)431-4410
中国事務所	広島県東広島市西条町田口 731-5	(082)425-1215
旧本部事務所	富山市北代 3915	移転認証登記中

理事長	津田 光(京都)	渉外
副理事長	四戸正子(岩手)	財政、総務
理事	古川祥子(神奈川)	事業、出勤
理事	岡田匡博(兵庫)	広報、訓練育成
理事	三上恵子(青森)	調査研究
監事	富澤祥子(東京)	
顧問	堀内壽子(埼玉)	救助犬育成
顧問	青山省三(群馬)	消防連携 S&R

救助犬統括部	村上信尊(広島)	
認定審査部	三谷郁子(神奈川)	
訓練育成部	岡田匡博(兵庫)	
SAR 部	青山省三(群馬)	
事務局	足立真希(富山)	

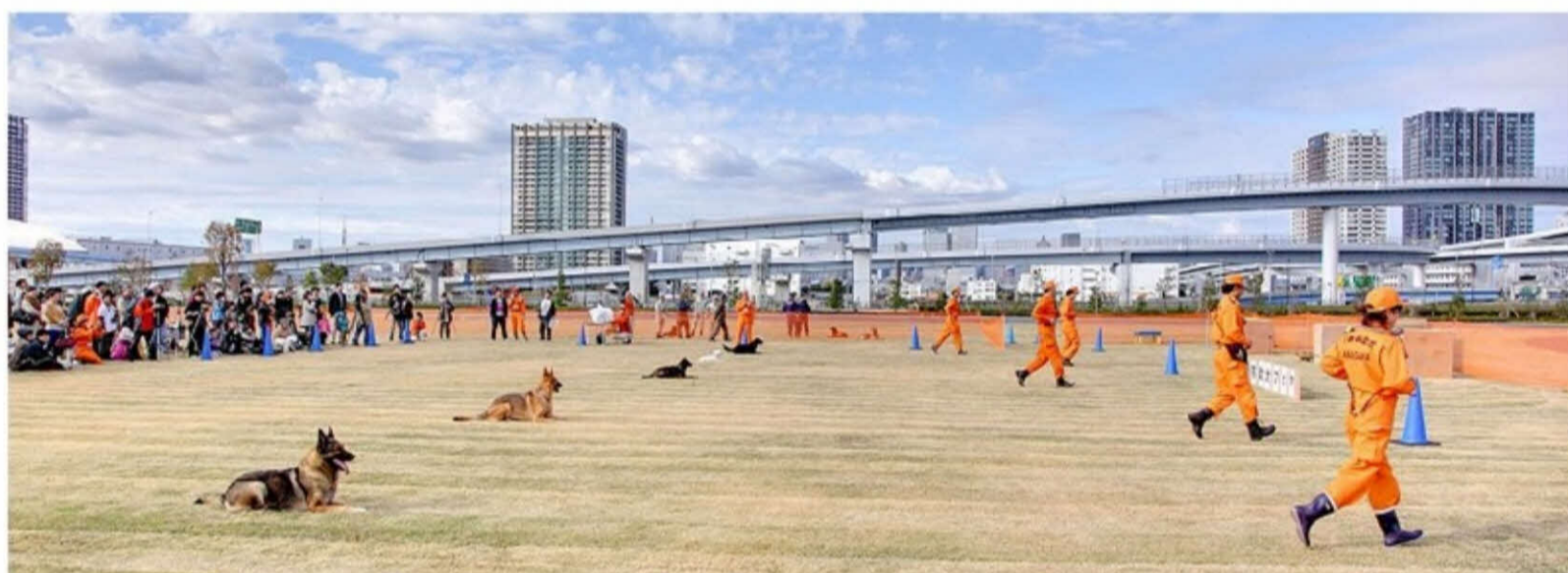


災害救助犬のことを知ってください

広報活動は2つの面から行っています。現場とともに活動する行政、救助隊には災害救助犬の特性を知ってもらい現場で効果的な活用をしていただきたい。一般社会の方々には民間NPOであり社会からの支援を得て活動していることに理解を求め支援をお願いしています。身近に伝えられる機会ではありますが、理解が得られるか真価が問われる場面でもあります。



■ふれあい
救助犬とふれあうことで未来のハンドラーに期待します。



■デモンストレーション
災害救助犬の実際作業を目の前で行い、理解が深まるようにしています。作業犬で基本である服従作業を並列で行う。失敗すれば即わかるので指導手は緊張する。捜索作業は隠れ役を観衆から募り区別なく人を捜せることを実際に見てもらいます。



■セミナー
消防学校の特別授業で災害救助犬への理解を深め現場での効果的な活用を検討します。

■テレビ取材
小学生向けのNHKEテレ「学ぼうBOSAI」の災害救助犬。乗鞍で行った訓練の取材です。



訓練育成



災害救助犬への道のり

救助犬になるためには犬との関係性、信頼感を培い地道な訓練が必要です。指示に従って作業を行う服従作業、さまざまな環境に順応して行方不明者を捜せる作業意識、意欲を成功の積み重ねによって育てていきます。

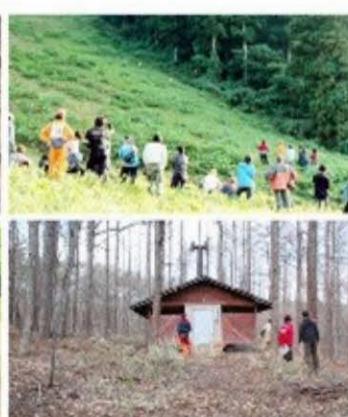


■REDOGは先進国スイスの人命救助システム(レスキューチェーン)のなかで活用されています。2019.7 REDOGとDRDNは連携協定を締結しました。



■認定審査

指示に従って確実に作業ができる服従審査を経て、山野、瓦礫、倒壊家屋などでの捜索審査に合格して災害救助犬となり、ここから実動訓練に移り、実践能力を磨きチームで現場に入るようにします。



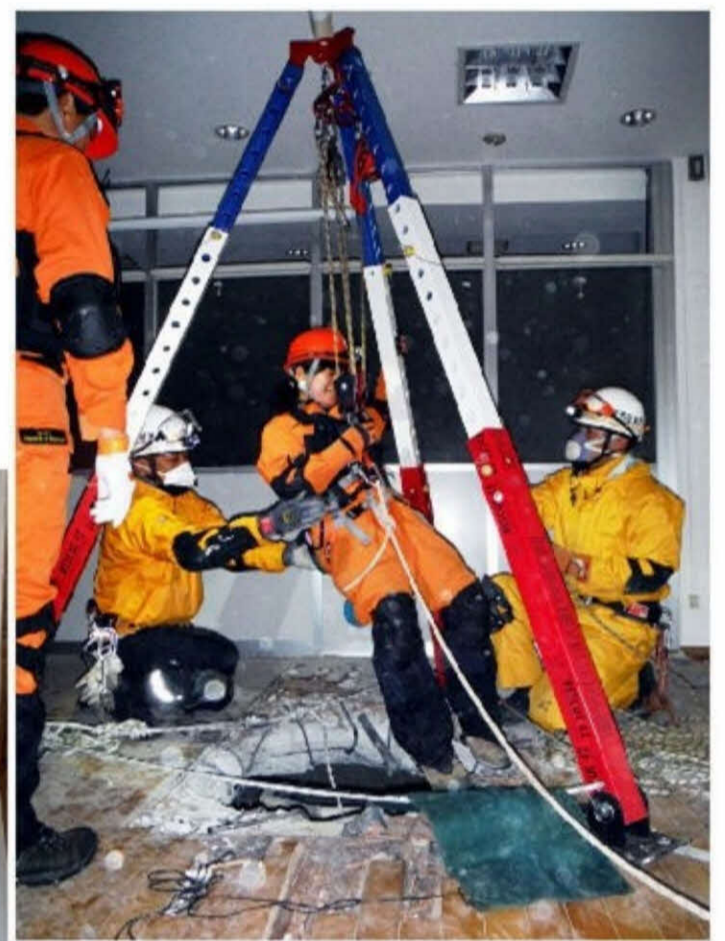
合同訓練



救助隊との連携訓練



警察、消防、DMATなどに救助犬を加えたサーチ&レスキューでの欧米のスタンダードモデルで訓練を行う救助隊が増えてきました。救助犬による早期の要請、搜索作業によって人命救助作業が効率的に行えるように合同訓練を通じて指導手の能力を磨き、さらに精度を上げて信頼を築きたいと考えています。



救助犬は搜索作業のために出動しますが、現場は被災地なので当然、危険で予測不可能な状況です。二次被害を起こさないために装備や連絡体制を確保し安全管理に十分に配慮しなければなりません。それらは緊張感のある訓練によって経験を積み失敗を糧とできる環境の中で培われていくものと思っています。



■防災訓練（協定自治体）秋の防災週間に毎年開催され参加しています。



■広域緊急援助隊（京都府警察）救助犬の作業に価値を感じてもらっています。

出動



救えるはずの命を救うために

救助犬の役割は、「救えるはずの命を救うために」いち早く現場に入り不明者の捜索に携わることです。しかし、発見だけに固執することなく救助隊が効率的な救助活動ができるように不明者が居ない場所も答えの一つとして提供しています。居ないという判断は見つけるよりも難しい判断です。その信頼に向けて平時から努力しています。



2018.7 西日本豪雨災害



いつ、どこで起こるかわからない災害にどのように備えるべきか。エリア的な制限や訓練環境も限定しないことが必要だと考えています。当会がめざしている実動のための災害救助犬の連携システム、現場管理体制を平時から準備してきたことが東北大震災、広島土砂災害、熊本地震等でも機能し対応できたと考えています。



2014.8 広島土砂災害



2016.4 熊本地震



2010.9 ひるがの高原



2013.5 マキノ高原



2016.8 小谷村

■行方不明者捜索

災害時より、むしろ平時の行方不明者の捜索依頼の方が多い。山菜取り、登山者、溪流釣りなど年間2千名になります。



NPO法人災害救助犬ネットワーク

東日本大震災の活動速報

『救えるはずの命を救うために』今後も努力してまいりますので、ご支援ご協力をお願いいたします。



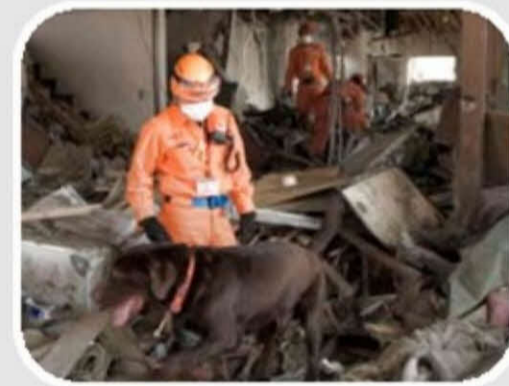
Photo/陸前高田市で警視庁との合同捜索

出動日数: 11日間 / 延べ19日間
 捜索箇所: 7ヶ所 / 延べ17ヶ所
 従事人数: 32名 / 延べ102名
 救助犬数: 26頭 / 延べ68頭

いつもご支援ご協力ありがとうございます。

この度の東日本大震災の活動概要を報告しています。詳しくはホームページをご覧ください。

検索: 災害救助犬ネットワーク www.drd-network.or.jp



- 3/11~12 福島県相馬市 津波被災地捜索 群馬緊急消防援助隊
- 3/13~14 岩手県釜石市 津波被災地捜索 大阪緊急消防援助隊
- 3/13~19 岩手県宮古市 津波被災地捜索 自衛隊・宮古市消防団
- 3/15 福島県郡山市 倒壊ビル捜索 郡山市消防本部
- 3/15~19 宮城県東松島気仙沼市 津波捜索 自衛隊
- 4/8 ~ 9 岩手県陸前高田市 津波被災地捜索 警視庁
- 4/11~2 福島県いわき市 土砂崩れ地捜索 いわき市消防本部



災害救助犬ネットワークの捜索

出動協定を締結している行政の要請で捜索チームに配属されます。また協定外の地域では災害対策本部指示や、消防 警察 警視庁 自衛隊との合同捜索となります。災害救助犬育成と捜索活動のほとんどの費用は自己負担です。会員の支出と皆様からの募金でまかなわれています。



NPO法人災害救助犬ネットワーク

広島土砂災害の活動速報

『救えるはずの命を救うために』今後も努力してまいりますので、ご支援ご協力をお願いいたします。



救助犬本部
(DRDN)

ハンドラー数：134名

救助犬数：106頭

合同捜索隊：5日間11団体

広島土砂災害の活動報告掲載を予定しています。詳しくはホームページをご覧ください。

検索：災害救助犬ネットワーク www.drd-network.or.jp

災害救助犬合同捜索隊参加団体

救助犬合同本部（広島消防局指揮下）
NPO法人 災害救助犬ネットワーク

合同捜索隊編成団体

認定NPO法人 日本レスキュー協会
NPO法人 九州災害救助犬協会
NPO法人 RDTA救助犬訓練士協会
NPO法人 災害救助犬協会新潟
NPO法人 災害救助犬静岡
日本救助犬協会チームさくら
岡山きび災害救助犬SRDK、Auf
全日本救助犬団体協議会
岸和田警察犬愛犬訓練所わんわん塾
ドックスクールアールプラス
NPO法人 災害救助犬ネットワーク



災害救助犬ネットワークの捜索

出動協定を締結している行政の要請で捜索チームに配属されます。広島県の指示で広島市消防局の指揮下に入り、災害救助犬合同捜索隊を現地で組織し、DRDNは救助犬本部として機能しました。災害救助犬育成と捜索活動のほとんどの費用は自己負担です。会員の支出と皆様からの募金でまかなわれています。



NPO 法人 災害救助犬ネットワーク

熊本地震 活動速報

「救えるはずの命を救うために」これからも努力していきます。ご支援をお願いいたします

16日 未明の本震を受け多数の行方不明者が出てしまった。災害救助犬が必要とされるのは場所が特定できない要救助者を捜索することである。

16日 以降は集中的に南阿蘇村で救助活動が展開され、各県の警察、自衛隊が土砂を掘削して災害救助犬が確認を繰り返す地道な作業の連続であった。結果、無念だが4名のご遺体であった。ご冥福をお祈りします。

4/16～20 南阿蘇村高野台

出動日数：4日間
 捜索箇所：2ヶ所
 従事団体：8組織
 従事者数：72名
 救助犬数：47頭

この熊本地震の報告は概要です。詳しくはホームページをご覧ください。 www.drd-network.or.jp/



西日本豪雨災害 活動速報

呉市消防局からの要請を受け、
 安否不明者2名の探索を2日間
 行い、この現場における2名の
 確認をして12日に撤収した。

呉市安浦町中畑
 2018.7.10-12
 11頭 13名



詳しくはホームページをご覧ください。

www.drd-network.or.jp

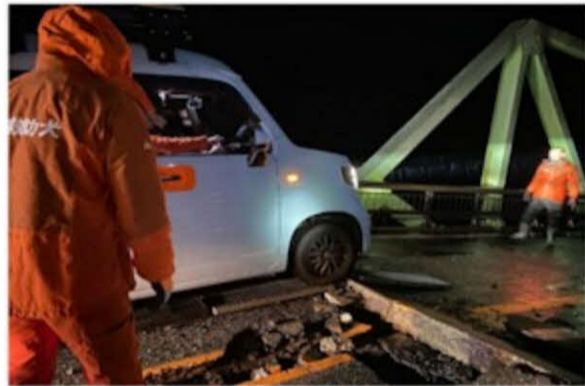




能登半島地震速報



1月1日午後8時、青森、岩手、東京、神奈川、京都、兵庫から5頭9名が集結地富山に向けて出動した。翌朝、消防群馬県隊と合流したが、道路障害のため、待機となり当チームだけで珠洲市へ向かった。道路の崩壊が激しく、金沢から珠洲まで9時間を要した。現地では自衛隊と連携し徒歩と自衛隊車に分乗して被害の大きい▲2ヶ所の捜索を行ったが犬たちは生体反応は示さなかった。



仁江町



大谷町

